

VAA は投票参加を促すか*

1230531 松田六花

指導教員 矢内勇生

研究背景

日本では国政選挙のたびにオンライン上で VAA が公開されている。手軽に自分の考えと一致する政党を知ることができる便利な VAA は、1994 年の選挙法改正後、政策中心となった選挙に参加するコストを下げるものとして日本に導入された。しかし、投票コストを下げる目的で導入された VAA が実際に投票参加を促しているか否かは明らかにされていない。

研究目的

日本における VAA の利用が投票参加に与える影響を実証分析で確認し、VAA の利用が投票参加を促すのかどうかを検証する。VAA の利用が投票参加に与える影響を推定することで、VAA の利用が投票率を上げる手段となり得るかどうかを確認することができる。

研究方法

2022 年 7 月に行われた参議院議員通常選挙の前後で一般の有権者を対象にオンラインサーベイ実験を行った。1 回目調査で回答者を処置群と対照群に無作為に振り分け、読売新聞が公開している VAA を利用するように処置群の被験者を誘導した。実際の投票日を挟んで行った 2 回目調査で、投票に参加したかを尋ねた。得られたデータに対して、ロジスティック回帰モデルを用いた分析を行い、VAA の利用が投票率に与える影響を推定した。

分析結果

VAA を利用するように誘導した処置群のほうが刺激を与えない対照群よりも、約 69% の確率で投票確率が高くなることが明らかになった。また処置群と対照群の投票率の差の平均値は約 4.4% ポイントと推定された。

結論

VAA の利用は約 69% の確率で投票参加を促すが、約 31% の確率で投票参加を妨げる。よって VAA の利用が投票参加を促すとは言い切れず、VAA の利用は投票率を上げるという目的では必ずしも有効な手段とは言えないことが明らかになった。

* 本研究の成果の一部は、公共選択学会第 26 回大会 (2022 年 12 月 4 日、名古屋市立大学) で報告しました。アドバイスをくださった他大学の先生方と、調査の設計から分析までたくさんのご指導を賜り、発表の機会を与えてくださった矢内勇生先生に感謝申し上げます。本研究の調査に参加いただいた方々や大学の友人にも御礼申し上げます。誠にありがとうございました。